

寺町台

伝統的建造物群保存地区

【探訪ポイントマップ】



【写真：極楽寺（旧野田道）】



【写真：妙立寺（旧鶴来道）】



安政期（1854～59）金沢町絵図寺町台部分

【石川県立歴史博物館所蔵】



金沢市の伝統的建造物群保存地区の位置



てらまちだい
寺町台



かずえまち
主計町



うたつさんろく
卯辰山麓



ひがしやま
東山ひがし

【編集・発行】金沢市文化スポーツ局 歴史都市推進課

TEL076-220-2208 Fax076-224-5046

〒920-8577 金沢市広坂1丁目1番1号

E-mail rekishitoshi@city.kanazawa.lg.jp

平成 29 年 7 月作成

【お願い】・伝統的建造物群保存地区は住民の生活空間です。迷惑にならないようルールを守って楽しく観光してください。

・住宅として利用されている町家は、内部非公開です。外観を注目してください。

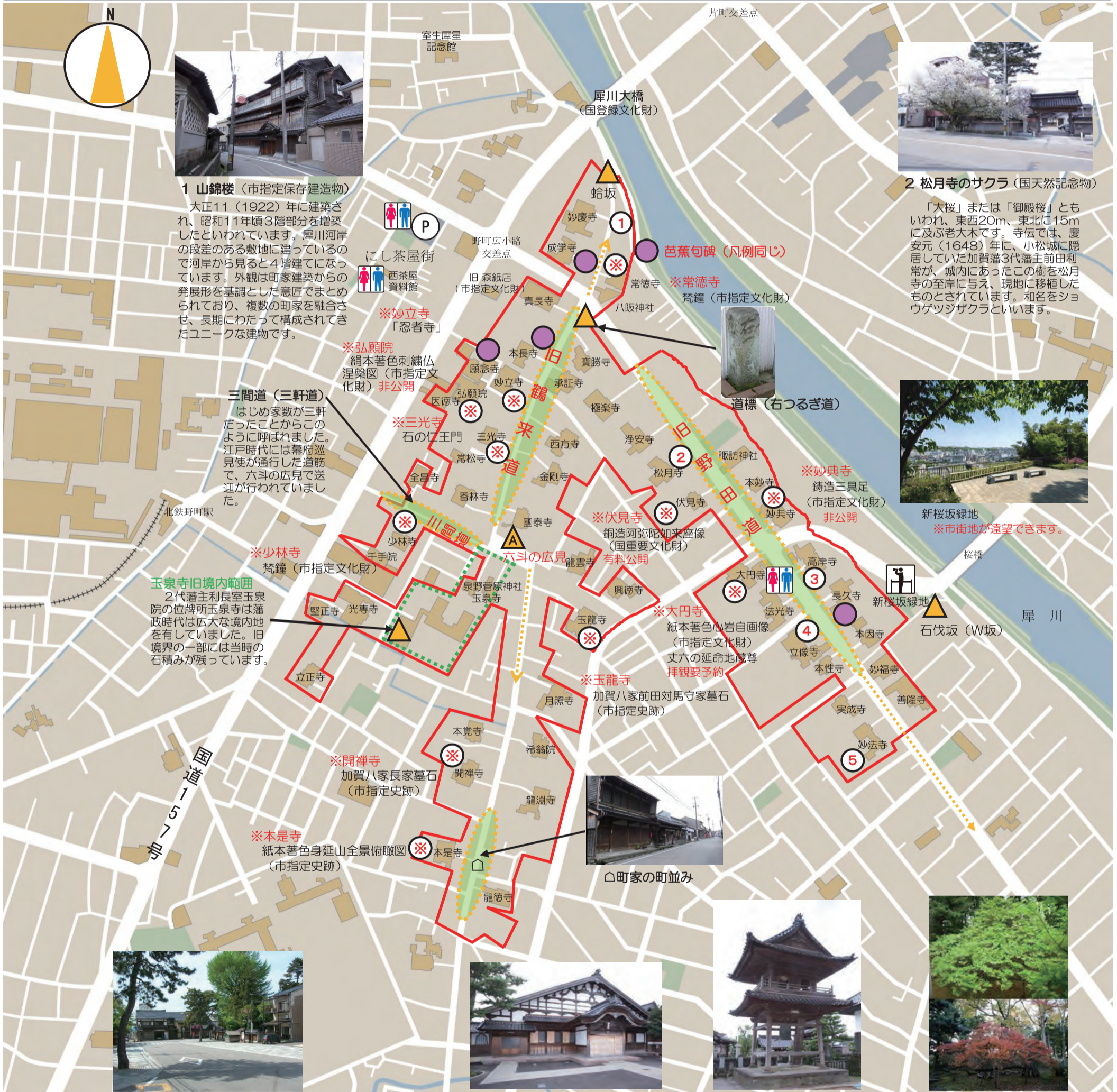
・境内地などで喫煙等の火気の使用はご遠慮ください。

寺町台 伝統的建造物群保存地区

地区決定 平成24年4月10日
重要伝統的建造物群保存地区選定 平成24年12月28日
地区面積 約22ヘクタール

寺町台の沿革と特長

慶長期から元和期(1596年～1624年)にかけて、寺町台、小立野台と共に卯辰山麓で寺院群の建設が始まり、延宝期(1673年～1681年)までには概ね完了したと考えられています。寺院群形成の理由として、城下町の防衛拠点としての軍事的機能のほか、金沢城から見た鬼門除け、城下町の拡大において空間利用の区分を目的としたなど諸説があります。寺町寺院群は、藩主前田家墓所がある野田山に向かう旧野田道沿いの「野田寺町」において元和初期(1615～1617)に立地した寺院が多く、集中的に形成されたことがわかります。一方、白山麓に向かう旧鶴来道沿いの「泉寺町」は、長い期間をかけて形成されたことがわかります。寺町台地区は、直線的な道路に沿って寺社が建ち並んだ「野田寺町」と、通りから直接寺社が見えにくく、通り沿いに門前地として町家が建ち並んだ「泉寺町」という景観の異なる2つの寺町を主軸として成り立っています。



1 山錦楼 (市指定保存建造物)
大正11 (1922) 年に建築され、昭和11年頃3階部分を増築したといわれています。犀川河岸の段差のある敷地に建っているため河岸から見ると4階建てになっています。外観は町家建築からの発展形を基調とした意匠でまとめられており、複数の町家を融合させた、長期にわたって構成されてきたユニークな建物です。



2 松月寺のサクラ (国天然記念物)
「大桜」または「御殿桜」ともいわれ、東西20m、東北に15mに及びる大木です。寺伝では、慶安元 (1648) 年に、小松城に隠居していた加賀藩3代藩主前田利常が、城内にあったこの樹を松月寺の至岸に与え、現地に移植したものとされています。和名をショウゲツジザクラといいます。



新桜坂緑地
※市街地が遠望できます。

三間道 (三軒道)
はじめ家数が三軒だったことからこのように呼ばれました。江戸時代には幕府巡見使が通行した道筋で、六斗の広見で送迎が行われていました。

玉泉寺旧境内範囲
2代藩主利長室玉泉院の位牌所玉泉寺は藩政時代は広大な境内地を有していました。旧境界の一部には当時の石積みが残っています。

六斗の広見 (約1,290㎡)
金沢に藩政時代から残る街路網の中の部分的な広がり「広見」と呼ばれる空間です。火災時の延焼を防止するために設けられた「火除け地」が由来とされています。「伏兵を集めた場所」や「荷車の回転場所」などの機能を有したともいわれていますが、地域の人々が集うコミュニティ広場のような場所にもなっています。六斗の広見は市内で最大の広見です。



町家の町並み



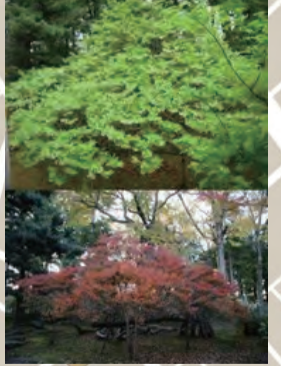
A 六斗の広見 (約1,290㎡)
金沢に藩政時代から残る街路網の中の部分的な広がり「広見」と呼ばれる空間です。火災時の延焼を防止するために設けられた「火除け地」が由来とされています。「伏兵を集めた場所」や「荷車の回転場所」などの機能を有したともいわれていますが、地域の人々が集うコミュニティ広場のような場所にもなっています。六斗の広見は市内で最大の広見です。



3 高岸寺本堂 (市指定文化財)
高岸寺本堂は文久元 (1861) 年の建築で正面が妻面を大きく見せて装飾的で中央に向唐破風造の式台玄関を設けています。日蓮宗寺院方丈型の大規模本堂として発展した到達点を示しています。鐘楼は祠堂の上に載る2階建てで、市内に類例がありません。
拝観要予約



4 立像寺鐘楼 (市指定文化財)
鐘楼は江戸時代には珍しい2階建ての入母屋造で、軒先には柿葺の軒を留めています。鐘銘にある元禄元 (1688) 年頃の建築と推定されます。本堂も市指定文化財で、寛永15 (1638) 年の棟札があります。寄棟造で、修理はされていますが小屋組を残す数少ない例として貴重で、元は柿葺であったと考えられています。
拝観境内のみ



5 妙法寺のドウダンツツジ (市指定天然記念物)
樹高約4.0m・葉張は東西方向に約7.15m・南北方向に約7.3m・根元周は1.55mで、金沢および石川県下において最大級のもので、樹齢は不明ですが、その大きさが妙法寺が現在地に置かれた元和元 (1615) 年に、庭木として植樹されたものと考えられます。
拝観要予約

注：伝統的建造物群保存地区の境界は、詳細を簡略化している部分があります。